

代表者会議【当日資料2－6】

茅ヶ崎市自立支援協議会報告書

標 題	令和7年 第1回 医療的ケア児等への支援体制検討プロジェクト			
日 時	令和7年5月7日（水）14時00分～16時00分			
場 所	茅ヶ崎市分庁舎5階 E会議室			
出席者	<div><div><div>■ 生活相談室 とれいん</div><div>■ 県立茅ヶ崎支援学校</div><div>□ 遊びりパーク Lino ‘a 茅ヶ崎</div><div>■ ムーブメントリラ菰園</div><div>■ マザー湘南 訪問看護そよかぜ</div><div>■ manaの会</div><div>■ manaの会</div><div>■ 療養通所マザー・こどもデイサービスにじ</div><div>□ ちがさきの木魂</div><div>□ 児童発達支援センター うーたん</div><div>■ 医療的ケア児等相談支援センターノア</div><div>■ 医療的ケア児等相談支援センターノア</div><div>■ 医療的ケア児等相談支援センターノア</div><div>■ 茅ヶ崎市こども育成部こども育成相談課</div><div>■ 茅ヶ崎市こども育成部こども育成相談課</div><div>■ 茅ヶ崎市こども育成部こども育成相談課</div><div>■ 茅ヶ崎市こども育成部保育課</div><div>■ 茅ヶ崎市こども育成部保育課</div><div>■ 教育総務部学校教育指導課</div><div>■ 茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課</div><div>■ 茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課</div><div>■ 茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課</div><div>■ 茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課</div><div>（オブザーバー）</div><div>■ 医療的ケア児等支援事業 ぐータッチ</div></div><div><div>榎園 貴子</div><div>佐藤 美保</div><div>大郷 和成</div><div>大鷲 敬</div><div>水野 美奈子</div><div>斉藤 美由紀</div><div>小山 陽子</div><div>原田 純子</div><div>安田 のり子</div><div>日高 義史</div><div>瀬川 直人</div><div>田中 治美</div><div>菊池 真弓</div><div>吉永 珠緒</div><div>佐藤 菜見子</div><div>坂木 恵里子</div><div>田中 麻美</div><div>柳澤 真帆</div><div>大坪 督</div><div>前田 玲美</div><div>鈴木 敦之</div><div>松本 明久</div><div>中村 知里</div><div>齊藤 優子</div></div></div>			
司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 前田課長補佐 書記：障がい福祉課 中村主任				
<div>1. 前回までの振り返り</div> <div><div>・医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が令和3年9月18日に施行され、地方公共団体は国との連携を図りつつ、医療的ケア児・家族に対する支援に係る施策を実施することが責務として示された。このことから、茅ヶ崎市では、自立支援協議会に外付けする形で医療的ケア児等支援体制検討プロジェクトを発足した。また、医療的ケア児等相談支援センターノアを開設し、医療的ケア児等コーディネーターの登録も開始した。</div><div>・昨年度1年間かけて、医ケア児等への支援を行っていくにあたって、どのような協議体を設けていくかを検討した。活動の中で医療的ケア児等支援社会資源情報整理シートを作成したり、課題の抽出をしたりした。</div><div>・今年度は協議の土壌づくりをしていく年と考えている。</div><div>・昨年度の第4回目のプロジェクトにおいて、【資料2】を参考資料としながら、どのような協議体としていくか話し合いをした。話し合いの結果、市が運営しやすい方法でよいということとなった。</div></div>				
<div>2. 今後の協議体の在り方について</div> <div><div>・協議体の構成メンバーには、退院後に関わる保健師に出席して欲しいという声があったため、今年度より、こども育成相談課の保健師もメンバーとなっている。</div><div>・学校や保育園の現場の方々にも声をかけたが、時間の兼ね合い等から参加が難しいという回答であった。</div><div>・今後は、地域課題を中心としながら、解決策等について協議していきたい。</div></div>				

代表者会議【当日資料２－６】

- ・令和8年度以降はプロジェクトではなく、新たな協議体として実施していく予定であり、新たな協議体をどのように設けていくかということも今年度考えながら活動をしていく。
- ・医療的ケア児等相談支援センターノアと医療的ケア児等コーディネーターで定期的な会議が開催されている。市としては、その会議を活かす形で協議体を移行したいと考えている。
- ・(【資料2】参照)医療的ケア児等支援検討連携会議において、抽出された課題を話し合えたらよいと考えている。

・課題の内容によって、圏域の会議等に提示していきたい。

・前回のプロジェクトにおいて、自立支援協議会において部会化することについては懸念があると安田委員から意見があった。その意見について市としても検討した上で部会化には至らなかった。

・今年度中に解決に至らないものは、次の協議体で話し合えるよう移行していきたい。

Q. 自立支援協議会(部会として)に設置することの懸念事項とは何であったか(原田委員)

A. 自立支援協議会は2～3年単位で行うものであり、時世の課題が終結した際に、協議体が終了してしまうという意見であった。このことを考慮し、別の協議体を発足していきたいと考えた。

・今年度より圏域会議としてぐータッチがランチ会議を実施し、それに県も参加することとなった。ランチ会議を実施することで直に県に意見を上げられる状況に変更となっている。(ぐータッチ)

Q. 今年度もこのプロジェクトチームで、昨年度に抽出された課題を協議するという認識でよい(原田委員)
特定のケースに関する課題について話し合えるのか。

A. 課題の協議については、そのとおりである。課題の優先度を考慮しながら、解決策や、活動内容について意見を出し合っていきたい。

プロジェクトでは、個別ケースに関する課題の話し合いではなく、一般化された課題について話し合っていく。

個別ケースに関する検討は、今後医療的ケア児等相談支援センターノアにおける連絡会で話し合っていたらいい、その中で一般化された課題について、プロジェクトで提示していただきたい。

・1年間かけてまとめた課題について、話し合っていくと認識している。優先順位をどのようにつけていくかを話し合いたい(manaの会 小山委員)。

→立場によって課題の見え方が異なると考えられるため、本日意見があれば伺いたい。(【資料2】を参考に説明)
(manaの会 小山委員)

・地域課題「支援体制」について、

①病院から在宅に移行する退院前や、1歳～3歳の未就学の期間(親御さんの中には働きたい方もいる期間である)に、小学校に繋がるまでの関係者が集まってどのように支援していくかを話し合えたらよい。

②災害時の支援体制として、個別避難計画が呼吸器のお子さんまで作成されていると聞いている。そこからどのように対象者を広げていけるのかを検討していきたい

③平塚市の当事者交流会ファシリテーターとして参加する。大和市からの依頼も受けている状況である。

茅ヶ崎市でも交流会を実施するとなれば開催を検討できるため、お声がけいただきたい(交流会の場が少ないことに関して)。

④医療的ケア児等支援社会資源情報整理シートを年々ブラッシュアップし、支援者(保健師・デイサービスの職員等)を通じて配布されるとよい。

③・④はすぐにでも動けるものであると考えられるため、①・②について議論していけたらと考える。

社会課題に関しては、茅ヶ崎市だけではどうにもならないため、話し合うイメージが湧かない。社会資源不足について、どういうところにどのように働きかけたら良いのかを教えてください。進捗報告をこの会で挙げて欲しい。

昨年度、本プロジェクトに参加し、とれいんの榎園委員と顔合わせをしていたことで、今年度茅ヶ崎支援学校1年生に進学されたお子さんの親御さんとコンタクトをとることができた。入学後の付き添い登校について、就労している親御さんを考慮し、令和5年から1か月の付き添いで良いことになっているとの情報があつた。

通学送迎についても、支援をしていくことになっている。

(マザー湘南 訪問看護そよかぜ 水野委員)

・(訪問看護の人材不足について)重度の医療的ケア児に対応できる訪問看護ステーションがまだ少なく、特定の訪問看護ステーションが毎日訪問しなければならない状況である。市内の訪問看護ステーションでは対応しきれず、市外の訪問看護ステーションに依頼しなければならず、緊急時にどのように対応するのが課題になっている。これまで医療的ケア児に対応していなかった訪問看護ステーションが、新たに医療的ケア児に対応するようチャレンジしても、中々スムーズにいかない現状もある。

代表者会議【当日資料２－６】

・医療的ケア児在宅レスパイト事業や通学支援等の制度が整っていても、実施できる事業所がない現状があり、継続していくことの困難感を抱いている。この現状をどのように解決していくのか、検討していけるとよい。

→(manaの会 小山委員)通学支援開始当初、マザー湘南と訪問リハビリ・看護サービスモーションのみが請け負っていたが、需要に対して供給量が足りなかったため、湘南シニアサービスやいりどり訪問看護ステーションに入ってもらった。いりどり訪問看護ステーションは、この通学送迎サービスを担ったことにより、医療的ケア児への訪問看護も行ってもらえる現状となった。新たに参画される訪問看護ステーションからは、慣れない様子もみられるため、医療的ケア児の対応に慣れている訪問看護ステーションから助言等してもらえる環境があると良いと感じた。

(療養通所マザー・こどもデイサービスにじ 原田委員)

・抱えている問題が根深く、保護者だけでは、動けない現実がある。コーディネーター連絡会の中で議論し、何が課題でどのように動いたら良いのかを、こども育成相談課や学校教育指導課に連携できるよう、重点課題としていただきたい。

Q. 個別避難計画については、介護保険だとケアマネージャーに手上げしてもらって作成してもらっている現状がある。障がい福祉課は、どのような運用で作成しているのか

→個別避難計画は、エリア別に優先順位をつけながら、地域の協力者をつけながら順番に作成している。

(こども育成相談課 佐藤委員)

・こども育成相談課の保健師の対応としては、出生届・出生連絡票を提出された際に、NICU に入院中であることや、疾患名、診断がついていない場合には今後精査していく状況等の聞き取りを行う。

・退院前のカンファレンスはケースによって(妊娠期からケアしなければならないと情報を掴んでいる場合等)実施する場合がある。退院後に発覚した疾患については、病院からの連絡を受けるが、ケース会に参加する事例は少ない。

→(manaの会 小山委員)

大和保健福祉事務所と話をした際に、マンパワーの問題で退院時カンファレンスに保健師が同行する状況でなくなると話を聞いた。3・4歳ぐらい迄定期的に保健師からの連絡があると良い。

・原田委員より、保育園に繋がりにくいという話があったが、具体的にどういうことか。

→(療養通所マザー・こどもデイサービスにじ 原田委員)

看護師の配置ができないが故に、希望する保育園に入園できないという事例があった。

看護師は、1人配置であり、医師にすぐに相談できる状況でないため、責任が重い現状がある。

相談できる体制、困り感を共有できる体制があると良い。

→(manaの会 小山委員)

・支援学校の場合は、横の繋がりがあがるが、保育園に配属された看護師は孤独になりやすい。学校で働く看護師を支援するNurse Fightという団体があるが、講演会を開いてもらった際に、学校看護師、保育園看護師は、その学校に配置されている意義を語れない場合が多いと話があった。こどもを中心にして意義があるということを示していけると、興味・関心を持ってもらえるのではないかとということであった。また、学校や保育園に配置された看護師は、1人で守るという責任感から恐怖心を抱きやすいと考えられる。こどもの成長の一部を担っているということ、教育や保護者と三位一体で行うということを示すことが重要との話があった。

(保育課 田中委員)

・医療的ケア児の受入れのため、浜見平保育園で看護師の募集をかけたが、応募がほぼなく採用ができなかった。採用でき次第、受入れていく。他の保育園については、医療的ケア児の保育所等受け入れガイドラインの中で、看護師が配置されている保育園を6園公表している。

(こども育成相談課 吉永委員)

・今後3回のプロジェクトは、連携について継続して話し合うのか、都度テーマは変更するのか。

→本日の話を受けて、医ケア児がどのようにライフステージを歩み、その際にどのような課題が挙がってくるのかの整理をまず行うことで、議論が進んでいくのではないかと感じた。今後の協議方法については、今回の話を受けて事務局にて検討する。

代表者会議【当日資料2－6】

3. 年間予定について
【資料3】のとおり説明。

次回日程:(仮)7月9日 10時から12時 分庁舎5階 F会議室